

# 加賀白山と郡上踊り

期 日 2011年7月14日～17日

参加者 石川 誠 佳子

行動

7/14日(木) 横須賀4:10発— 東名御殿場—富士五湖道路—中央高速—松本インター 9:00—釜ヶ崎前 10:00 通過—  
高山經由白川郷 13:30—白山スーパー林道途中の中宮温泉 15:00 着

松本インターを下りて、上高地線へ、先日の土石流の復旧工事が行なわれていた。右側からの沢筋の土石流の跡は、すさまじいものがあった。釜ヶ崎前を左折し、高山へ、飛騨清美 IC から東海北陸自動車道に乗り白山スーパー林道の入り口にある、白川郷を見学する。夏の白川郷は暑かった、やはり此処は雪景色の中にたたずむ合掌造りが似合うと思う。

ここからは白山スーパー林道へ入る。昭和42年着工し、完成したのが昭和52年総延長33kmの山岳道路で道は山肌を縫ってスリル満点の道路である。夜間走行は危険なため、午後6時から通行止めとなる。

周りの景色を堪能しながら秋に来ると紅葉が素晴らしいだろうと思わせる。途中中宮料金を左折し今日の宿泊地「にしやま旅館」に入る。この温泉は、開湯1300年前の歴史を持つ古い温泉で泉質は、ナトリウム塩化物炭酸水素塩泉、温泉は、飲めるが少ししょっぱい。入浴温度は43度とのことで熱く長くは入ってられない。日本秘湯を守る宿として登録され越後駒ヶ岳の駒ノ湯温泉と一緒にあった。夕食は岩魚や山菜の天麩羅など美味しかった。

明日の昼食を依頼する。風呂は露天風呂含め3回入って山に登る前に湯疲れしてしまいそうであった。



「夏の白川郷合掌造り群」



「湯殿に飾ってあった種田山頭火の自由律俳句 長閑さを感じる」



「旅館の一角 熊の剥製など展示」

7/15 日(金) 中宮温泉 7:40 発—白峰温泉經由別当出合 9:00 着—9:15 発— 砂防新道登山 9:30 発—  
中版場 10:20— 10:40 発—12:35 甚之助避難小屋—黒ボコ岩 14:35—弥陀ヶ原經由白山室堂着 15:20 宿泊

旅館から一路白峰温泉を經由し、別当出合へ。この駐車場は車で入れるのが今日迄で明日 16 日からはマイカー規制がかかり白山温泉にある市ノ瀬ビジターセンターからシャトルバス輸送となる。

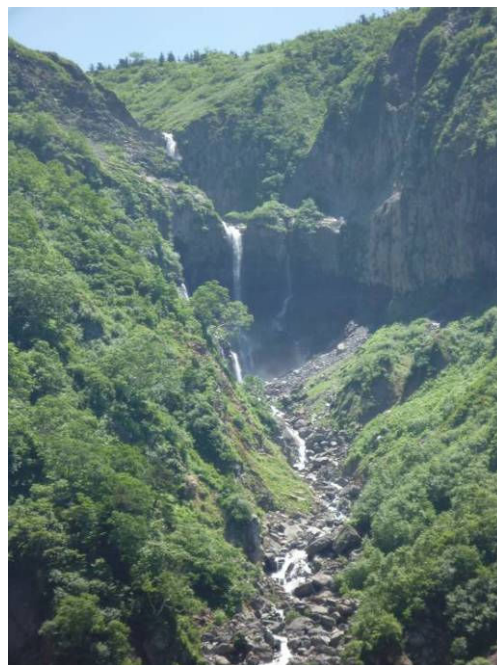
登山道は砂防新道を辿る、この道は名前どおり甚之助谷の砂防工事で多くの堰堤が見え、今も工事が続いている。途中不動滝などを見ながら登山道を登る。中飯場小屋を經由し、甚之助小屋に、この小屋は下に新しい小屋が出来ていてトイレも素晴らしく、一段上に古い小屋が残されていた。さらに高みを目指し南竜分岐から黒ボコ岩へ、この岩は稜線上にある大きな岩で、明日下る観光新道の分岐点でもある。下の水場でゆっくり水を補給し、更に登ってゆくと弥陀ヶ原の入口で、ここには沢山の高山植物が保護され、正に百花撩乱の趣がある。木道を進み小高い丘を越えると今日の宿泊地白山室堂があった。

鳥居の上には白山が聳えている。小屋はカイコ棚で 2 段、詰めて寝かされる。

明日からはもっと混む様な話だった。



「別当出合登山口吊橋を渡る。」



「甚之助谷 不動滝を望む」



「黒ボコの岩」



「弥陀ヶ原 木道」





「 宿泊地 白山室堂」



「 鳥居越しの白山頂上」



「雪渓が残る 」



「別山」・見栄えのする立派な山である。」

7/16 日(土)室堂 4:00 発—御前峰頂上(2702m)ご来光を見て神主万歳三唱—室堂 6:00 着—朝食後室堂 7:00 発—  
エコーラインを途中まで行き、御嶽、別山、高山植物お花畑を見学ね戻って観光新道を下る—黒ゴコ岩  
8:05 通過—8:50 着殿池避難小屋 9:05 発—10:10 別当分岐—12:00 別当出合登山口着—駐車場 13:00 発  
郡上八幡 旅館「磨墨スミ」泊 郡上おどり見学 20:00～



「ご来光を待つ」

朝 4 時神主の先導で白山頂上へ石畳の整備された道を登る神主さんは下駄履きにはかま姿、ライトを点けて 40 分で頂上御前峰へ。頂上では多くの登山者をご来光を待っていた 4:50 頃雲の間にご来光が上る。

神主さんの音頭で東日本大震災の犠牲者へのお悔やみと日本の安寧を祈り、登山者皆で万歳三唱を行なう。

心も清められ清清しさを感じる。周囲に御嶽、北アルプスの槍・穂高岳連峰を遠くに望む。

今日の雲海は素晴らしく。室堂のほうに目を転ずれば弥陀ヶ原の上に二筋の雲が流れ壮観であった。

その後室道で朝食を摂り、弁当(五目寿司)を受け取り弥陀ヶ原を昨日来た道に戻る。途中御嶽や別山の姿に見とれて、エコーラインの道を降っていたが、周りの高山植物の花々は今を盛りにと多くの花が競うように咲き誇っていた。一旦正規な道に元り黒ボコ岩から観光新道(白山禅定道)の稜線馬のたて髪、経由し、殿が池小屋で休憩、この稜線上もキスゲや車百合など花満開であり、写真を撮るのに大変である。

別当分岐から急な下りを1時間ほど別当出合のつり橋の登山口に降り立つ。本当に暑い日であった。

駐車場を出発したのが13時、これから横須賀に帰るには疲れて汗びっしょりでもあるので、途中居眠り運転で事故でも起こすと大変なので、途中郡上八幡の観光協会に電話し宿を紹介してもらう。



勝山街道、美濃街道を通過して白鳥から東海北陸自動車道に乗り郡上八幡へ。旅館「磨墨」に就いたのは午後4:20分早速風呂に入って登山の疲れを癒す。途中道の駅では、気温37.5度を示し車から降りるのも辛く、とにかく岐阜も暑いところだった。

郡上八幡は、丁度お盆の季節で「郡上おどり」を開催していて夜8時から夕涼みがてら見学する。

郡上踊りは、日本三大おどりの一つに数えられ、国の重要無形民俗文化財に指定されていて7月から

9月初めまで土日を中心に、各町内会持ち回りで開催され、今年は、8月13日～16日まで4日間盂蘭盆会として徹夜で踊り明かすとの事でそれは圧巻であるとの

### 「弥陀ヶ原の上を雲が流れる 頂上から」

事であった。踊りは、屋台を中心に唄とお囃子で賑やかに踊り、曲目ごとに踊り方が違うのである。浴衣に下駄と着飾った地元の方々や、旅行者などが飛び入りで踊っていた。

そして最初は少なかった踊り子達も帰る頃には大きな輪となってそれは壮観でもあった。

その日の踊りの審査種目は、「春駒」の踊りで審査員が踊りの上手な人に免許をよるとの事でみんな懸命に踊っていたのがつよく印象に残った。郡上おどりは地方の良い風習と古い伝統を引き継いだ日本の文化をいつもまでも残しておきたいものである。



「頂上からの別山」



「白山開山の謂れ」





「クロユリ」



「キスゲとクルマユリ」



「ゴゼンタチバナ」



「ダイヤモンドソウ」





「屋台 唄とお囃子」



「踊る人たち」

7/17 日(日) 旅館 8:10 発—10:00 上郷 SA—牧の原 SA12:00—横浜町田 15:00 通過—自宅 15:30 着  
走行距離 1080km

帰りは東海北陸自動車道から一宮に出て名神高速道を豊田へ、そこから東名高速道を一路横浜、横須賀へと戻り帰宅したのが午後 3 時 20 分頃となり加賀白山の山行を無事終える。

記録 石川誠